

- 宮城県では、大規模土地利用型経営体の支援に向け、水稲の乾田直播栽培や湛水直播栽培等の導入を促進。
- 直播栽培においては、減水深や水温の違い、水管理のタイミングにより生育や収量、雑草の発生量等にも大きく影響することから、現地での水環境をモニタリングし、直播栽培での水管理方法等について検証。
- 直播栽培ほ場における減水深の違い、出芽後や除草剤散布時の水深等を把握することで、移植栽培並みの収量を確保。

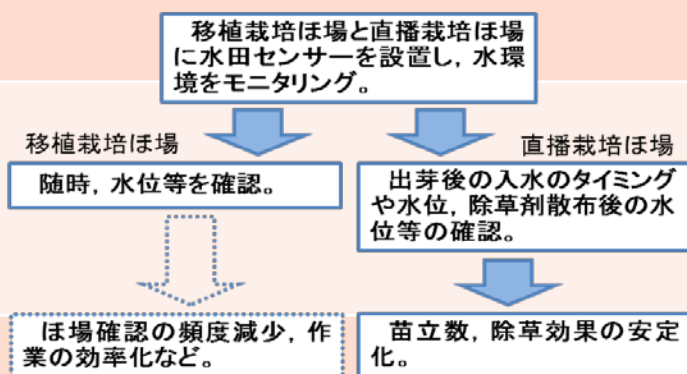
実証の流れ

- 県内の4経営体において、技術導入の支援・普及指導活動を実施し、そのノウハウを県下へ普及。

- 実証イメージ(実線部分を中心に実施)

- 4経営体の所在地
仙台市、岩沼市(2か所)、栗原市
- 検証内容
水稲直播栽培による水田センサーの活用等

- 水稲直播栽培における水環境を把握し、水管理・栽培指導への活用を検証



実証の成果

- 水稲直播栽培ほ場では、減水深が大きく、水管理作業の回数が増加していることを確認。
- 乾田直播栽培においては、ほ場により、減水深の程度に差があることを確認。
- 実施経営体では、タブレット等で水位等を確認しながら、入水作業を実施。
- 直播栽培で問題となる出芽後の入水や除草剤散布のタイミングに活用し、苗立数の安定や除草効果を確認。

普及指導員の活動

- 水稲の生育調査とデータ確認を実施し、生産者と普及指導員が計測データを確認・共有し、技術指導等に活用。
- 先端技術等に関心のある生産者等を対象とした現地検討会を開催。
- 水田センサの特徴や測定データ、減水深の状況等を紹介。
- 今後の技術指導、ほ場の特徴把握などに役立つ情報として、計測データを分析・蓄積し、次年度以降の作付に活用。

モデル経営体



水稲直播栽培の導入



水田センサの設置



現地検討会の開催